

「JENESYS2.0」

中国青年ボランティア代表团

訪問日程 平成 25 年 8 月 27 日（火）～9 月 3 日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国青年ボランティア代表团、計 30 名が、8 月 27 日から 9 月 3 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：関 立彤（カン・リットウ）
中国日本友好協会・秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本のボランティア団体との交流や東日本大震災の被災地視察をはじめとしたプログラムのほか、企業訪問、伝統文化体験、地域参観等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

8 月 27 日（火）

成田空港着、オリエンテーション

8 月 28 日（水）

東京都庁訪問・説明、三菱商事株式会社訪問・交流、歓迎会

8 月 29 日（木）

国会議事堂視察、皇居・二重橋参観、岩手県へ移動、和風温泉旅館で日本文化体験

8 月 30 日（金）

NPO 法人遠野まごころネット訪問・説明、岩手県遠野市政の説明、遠野ふるさと村参観
（伝統文化体験）

8 月 31 日（土）

東日本大震災被災地視察（大槌町、釜石市）

9 月 1 日（日）

平泉参観（中尊寺、毛越寺）、東京へ移動

9 月 2 日（月）

日本科学未来館視察、グリー株式会社訪問・視察、浅草寺・仲見世参観、歓送報告会

9 月 3 日（火）

商業施設視察、成田空港より帰国

3 写真

	
8月28日 東京都庁訪問 ボランティア施策の説明 (東京都)	8月28日 東京都庁訪問 質疑応答 (東京都)
8月28日 訪問東京都政府 志愿者行动计划的说明 (東京都)	8月28日 訪問東京都政府 答疑 (東京都)
	
8月28日 三菱商事(株)訪問 企業の社会貢献についての説明 (東京都)	8月28日 三菱商事(株)訪問 質疑応答 (東京都)
8月28日 訪問三菱商事株式会社 关于企业对社会贡献的说明 (東京都)	8月28日 訪問三菱商事株式会社 答疑 (東京都)

	
8 月 28 日 歓迎会 植野篤志外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課長の挨拶（東京都）	8 月 28 日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長（右）と歓談する団員（東京都）
8 月 28 日 歓迎会 植野篤志外務省アジア大洋州局中国・蒙古第一課長の致辞（東京都）	8 月 28 日 歓迎会 与江田五月日中友好会館会長（右）畅谈の団員（東京都）
	
8 月 29 日 国会議事堂視察（東京都）	8 月 29 日 皇居二重橋参観（東京都）
8 月 29 日 参观国会议事堂（东京都）	8 月 29 日 参观皇宫二重桥（东京都）
	
8 月 30 日 NPO 法人遠野まごころネット訪問 活動内容の説明（岩手県）	8 月 30 日 NPO 法人遠野まごころネット訪問 質疑応答（岩手県）
8 月 30 日 访问 NPO 法人远野真心网 活动内容的说明（岩手县）	8 月 30 日 访问 NPO 法人远野真心网 答疑（岩手县）

	
8月30日 岩手県遠野市政（観光・地域の特色）の説明（岩手県）	8月30日 遠野ふるさと村にて、伝統文化体験（岩手県）
8月30日 岩手県遠野市政府講座（旅游，地方的特色）（岩手県）	8月30日 在远野故乡村，体验传统文化（岩手県）
	
8月31日 東日本大震災被災地視察（岩手県大槌町）	8月31日 東日本大震災被災地視察（岩手県釜石市）
8月31日 考察东日本大地震受灾地区（岩手県大槌町）	8月31日 考察东日本大地震受灾地区（岩手県釜石市）
	
9月1日 平泉 毛越寺参観（岩手県）	9月1日 平泉 中尊寺参観（岩手県）
9月1日 参观平泉毛越寺（岩手県）	9月1日 参观平泉中尊寺（岩手県）

	
9月2日 日本科学未来館視察（東京都）	9月2日 グリー㈱訪問・視察（東京都）
9月2日 参観日本科学未来館（東京都）	9月2日 考察GREE株式会社(東京都)
	
9月2日 歓送報告会 関立彤団長の挨拶（東京都）	9月2日 歓送報告会 訪日成果報告（東京都）
9月2日 欢送报告会 关立彤团长的致辞（東京都）	9月2日 欢送报告会 汇报访日成果（東京都）

4 参加者の感想（抜粋）

- NP0 法人遠野まごころネットとの交流や東京都庁でのブリーフを通して、日本のボランティア組織について認識を深めることができた。ボランティアの組織、管理、機能の持続性などいくつかの側面から細かくプランを立て、制度を整え、災害発生時にはボランティアたちが理路整然と活動できるようになっている。また、災害発生後においては、ボランティアチームの持続性と高い効率性は大きな推進作用があり、日本のボランティア事業は他の国々をリードしていると感じた。

三菱商事株式会社、グリー株式会社を訪問し、日本の企業がほかの国の企業と異なり、はっきりした企業文化を有し、企業制度も相対的に整っていることが分かった。企業の発展という面だけではなく、企業の競争力という面でも、非常に高い実力を持っている。その上、ボランティア・サービスと社会公益事業に関する制度も比較的整っており、それによって企業が国の安定と発展に結びついているのだと思った。

日本での数日間、日本人とたくさん交流し、彼らの友好の気持ちを感じた。いわゆる嫌中感情はなく、このような国際情勢の中で、中日両国が政治的、経済的に友好的な関係を結んでほしいという切なる希望を日本人が抱いていると感じた。

- 私は社会人ボランティアとして、社会のためになるボランティア活動に、より一層打ち込む責任と義務があり、今回のボランティア青年団の交流によって、日本のボランティアがどのように活動を展開しているのか、より一層理解することができた。とりわけ防災・減災に関しては得るものが多かった。NPO 法人遠野まごころネットのボランティア活動からは大きなインスピレーションを受けた。ここで見たこと聞いたことを中国に持ち帰り、多くの人に伝えたいと思う。そして皆にもっとよく日本を知ってもらい、またボランティア活動に参加してもらいたいと思う。
- 今回の訪問で最も印象に残ったのは、ボランティア活動に従事するお年寄りの方々である。皆さん意欲的で仲が良く、日々の生活を心から愛し、進んで人助けをしている。釜石市では、被災後の再建現場を視察した際、63歳の静子さんという女性の話に感動した。彼女の話を通して、災害の恐ろしさと、被災地の住民が受けた深刻な打撃について知ることができた。同時に、日本政府が一般国民に対して行っている防災教育は十分で行き届いており、こうした教育が多くの人を災難から救ったのだということも分かった。もちろん、静子さんの仕事に対する責任感と情熱にも非常に感銘を受けた。中国では、リタイア後のお年寄りの多くは何もせずに家にいて、安らかに晩年を過ごすことが一般的だが、日本のお年寄りは、静子さんのようにボランティアとして積極的に社会活動に参加し、観光客のために現地の状況、風土、名所旧跡を紹介する人が大勢いるように思えた。例えば、中尊寺金色堂では、あるお年寄りのガイドのもとで我々は参観し、東京の日本科学未来館でも、大勢のお年寄りが科学館の運営に参加している様子を目の当たりにした。皆さん活動的で、話の内容も豊富なおうえ、情報も正確で、若者に匹敵する働きぶりだと思った。中国青年ボランティア代表団の一員として、こうしたお年寄りのボランティアの姿に深く感動し、ボランティアは年齢に関係なく、誰もが参加できるものだと思った。ボランティアは、年をとっても一生携わることのできる活動であり、実際に体を使って努力し、社会に貢献していこうと思った。

- この8日間の友好訪問活動で、最も印象に残った事柄は下記のとおりである。

1. 国民意識が高い。2. 環境意識が高い。3. 平和を願う気持ちが強い。

国民意識が高いとはつまり、日本人は郷土の民族的文化・伝統をよく伝承しているだけでなく、世界の先進的な文化も取り入れている。例えば、日本には昔話や、カッパのような妖怪伝説がたくさんあり、日本人はこうした文化を伝承していった上で、漫画やアニメ、ウォシュレットなど、新しい製品も数多く発明している。環境意識が高いとはつまり、循環型産業が発達しており、日本人の環境保護意識は日常生活や仕事の中に深く溶け込んでいて、道を走っている自動車の多くは排気量の少ない低排ガス車であり、路上はきれいで、ゴミのポイ捨てはめったに見られなか

った。喫煙者は店で携帯用吸殻入れを買い、吸い終わればそこにしまい、吸殻の捨てられるゴミ箱のところまで持って行って捨てていて、同じくペットボトルも家庭に持ち帰りゴミ箱へ捨てている。しかもこうした行為がスタイリッシュな流行となっている。平和意識が強いということについては、私が交流した日本人の中に、世界経済の一体化について深く理解している人がいた。日本の便利な暮らしには、世界各国からの物資を必要としており、貿易は輸入を中心とした「私の中にあなたがいる、あなたの中に私がいる」という構造になっている。長期にわたる平和があってこそ享受できる平和な生活スタイルなのだったと思った。その上、日本人は友好的で、家庭であっても、仕事であっても、強い責任感を持っており、心から平和で安定した穏やかな生活を呼び掛けているのだと思った。

以上の私が感銘を受け、感じたことが、私の周囲の学生や友人、家族へ伝えたい情報である。

- この活動に参加する前の日本の印象は、抽象的な概念でしかなかった。日本の自動車、電子製品、農業といった産業が発達していることも知ってはいたが、活動への参加後、具体的な認識として、より深く日本の産業の発展を理解できた。特に交通、環境保護、文化事業（印刷、アニメーション、伝統芸術）は印象に残った。

日本の教育は学生の自立性とサバイバル力、自主学習力と社会の道理、人々の素養の育成と向上をととても重視していると感じた。環境保護については、日本の循環型産業の中に、中国が見習い、参考にすべきところがたくさんあると思った。日本のボランティア活動はシステム化されており、さまざまなところで公益活動に参加しているボランティアがおり、中国のボランティアたちと違うところは、中国ではその多くが 35 歳以下の若者であるのに対し、日本のボランティアには 60 歳以上の高齢者が多いというところだ。

- 運用管理の面で言うと、日本の政府機能はよりシンプルで、NGO や NPO 事業が発達しており、相当なレベルで政府の管理負担を軽減し、また、社会管理の効率も引き上げている。政府機能の中でも、公共の市民レベルで完結できるものについては社会に委ねることができ、政府が一手に担ったがために管理しきれなくなるということもない。ボランティア活動の面で言うと、日本のボランティア活動は、より社会と人々の心に深く入り込んだもので、さまざまな場面でボランティアの存在を目にすることができる。彼らは自分自身の仕事に対する情熱を持ち、心から望んでボランティア活動に従事しているように見えた。ボランティア活動は自分の名誉や利益のためにやっているわけではなく、それゆえ、まず自由意志によるものでなければならず、自発的なボランティア参加者こそ、本当にきちんとボランティア活動を行うことができるのだと思った。